

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	首里きらめき		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20 (世帯数19)	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもが安心して通い自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を心掛けている	コミュニケーション面で困難を抱えている児童も多くいるので、コミュニケーション支援には力を入れている。“ことばやコミュニケーションの基礎を育てる”“前言語的なコミュニケーションの促し”“話の内容を視覚的に補い物の概念が広がるよう”に支援している。 良好なチームワークまたは家庭的な環境の中で児童が安心して通うことができるように常に意識している。	これまでの支援方法を継続し、家庭や学校と情報共有しながら、児童ひとりひとりの意思を尊重していきたい。 小学生～高校生の幅の広い繋がりを大切にし、自分自身を尊重しながら人間関係を築いていくことの重要性を伝えていきたい。
2	・こどもの活動等のスペースが十分に確保されている ・生活空間がこどもにわかりやすく構造化された環境になっており、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	静養室、指導訓練室、プレイルーム、相談室を設け、必要に応じて空間を活用しています。車椅子利用の児童が大幅を占めているので困難さを感じることなく伸び伸びと過ごせる環境をつくり、「自分のことは自分でできる」を目指し食事、排泄なども積極的に挑戦できるよう支援している。	障がいの特性に応じて、必要な設備や環境整備を考慮していきたい。また、常に「合理的配慮」の視点を持ちご利用者自身が挑戦する心を持ち続けられるようにしていきたい。
3	・事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	療育の5領域を考慮した活動プログラム構成をはじめ、個々の特性に合わせた身体機能訓練(手指、立位、歩行など)も対応させて頂いています。他、ADL向上の為に生活動作訓練にも力を入れています。	今後も児童が充実できる活動プログラムを企画し、楽しく通所し満足度を高められるようにしていく。 その為に、児童や保護者からの要望を聞き取りしながら、個別支援計画書作成やプログラムの充実に繋げていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	利用者様の居住地の範囲、年齢の幅または特性の違い、保護者様のニーズを考慮した場合、事業所単位では企画が難しい。また、駐車場の確保も厳しい。 今年度、法人の他事業所と合同の保護者会を開催したが、場所が読谷村だったので参加保護者は少数だった。	・保護者さまひとりひとりと向き合い、支援の在り方や家族支援の方法を検討していきたい。 ・法人で企画する保護者会や研修会については引き続きご案内していく。 ・面談や参観日を設けるなど、保護者様の負担にならない方法を検討していく。
2	・支援開始または終了後に、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	送迎業務の兼ね合いで職員の出勤時間と退勤時間がまばらな為、支援終了後に話し合いを設ける時間がとれない。 申し送り帳や毎週の事業所会議で報告しあっているが、まだ十分ではないとの声も上がっている。	・申し送り帳を活用しその日のうちに記入。少しでも気になる内容は必ず口頭で連絡し合う。 ・児童が来所する前の時間(午前中)を利用して職員間で振り返りを行う。管理者だけでなく、他職員も積極的に進行する。常に職員間で細かな情報共有をしていく。
3	・事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	石嶺小学校区まちづくり協議会の力を得て、研修会やイベント案内はいただくが、当事業所から発信することはできていない。	季節の行事(夏祭りやクリスマス)に合わせて、地域の方々と交流しながら当事業所を知っていただく運営を行えるよう検討していく。